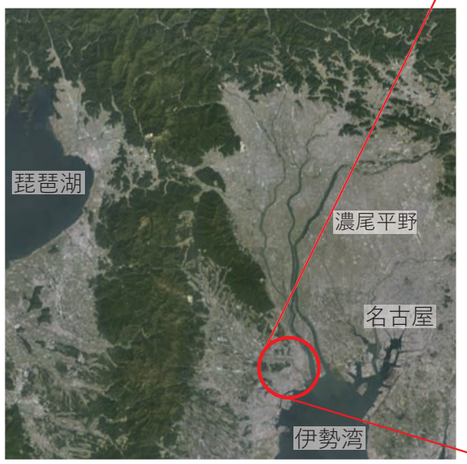
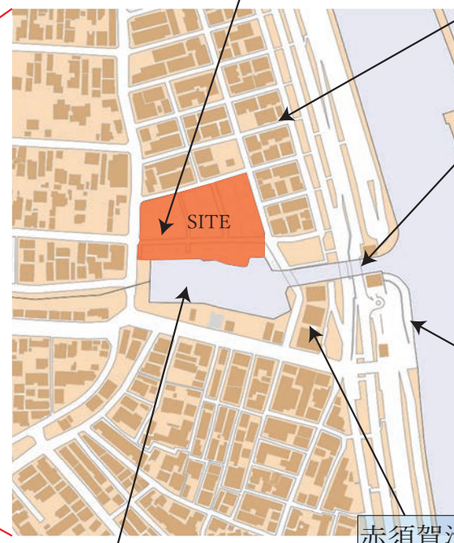
■敷地

三重県桑名市



濃尾平野の端に位置する
交通の便を生かし、名古屋の
ベッドタウンとして発展
一方、水産業やその加工業
（しぐれ煮）の地場産業も盛ん

赤須賀地区



「瑞宝しぐれ」 本店
しぐれ煮は桑名市の
名産品である

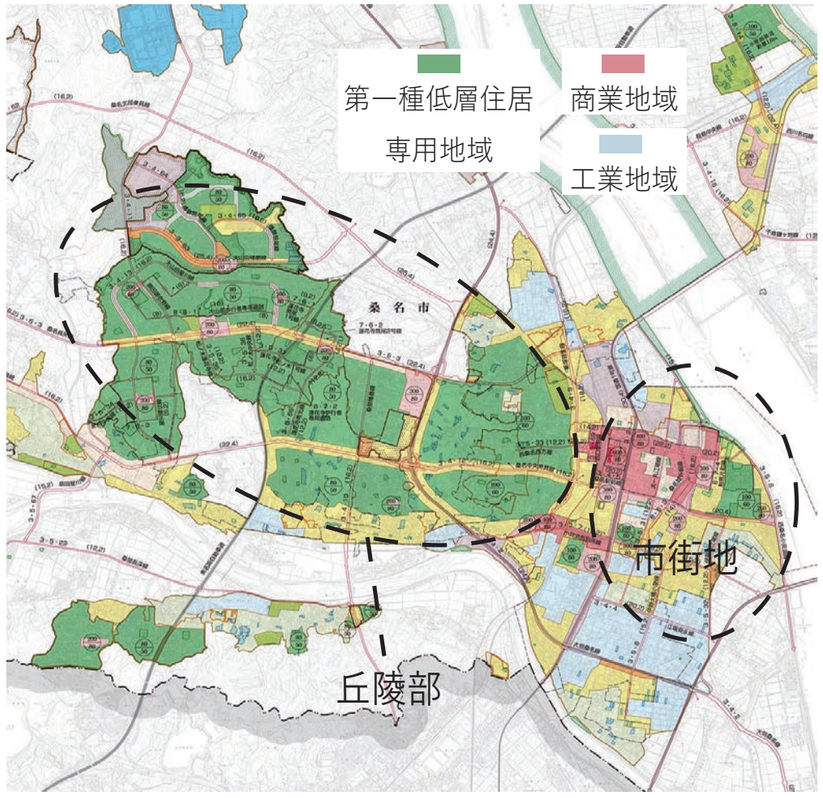
切妻の低層住宅が建ち
並ぶ。伊勢湾台風の後
に形成された街並み。

舟入の出入り口で、洪
水対策として水門が設
けられている

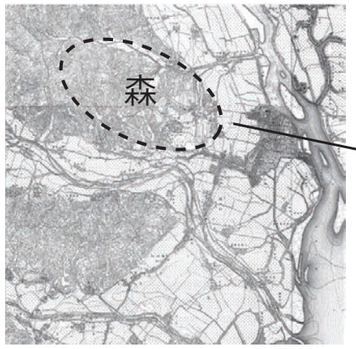
赤須賀漁港
200 以上の隻数を誇る
漁港で、シジミの漁獲
量は全国の消費量の 2
割を占める。

敷地南側の船溜まり
所狭しと船が停留する

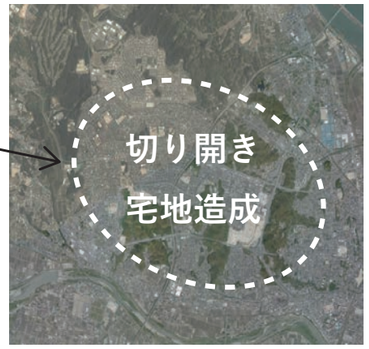
赤須賀漁協組合、公民
館、セリの市場などが
入っている公共施設



丘陵部の森であった土地を切り開き、宅地整備
してきた。濃尾平野の景観を考慮した用途地域
の設定がなされている



1888~1898 年



現在

しかしこの方法では、今後開発する土地が足らず破綻する。
既存の住宅地を再編するアプローチが望まれる

そこで、桑名市の赤須賀という地区に着目する。
古くからハマグリを中心とした水産業で栄え、
貝のしぐれ煮という地場産業も健在であることから、
盛んな地場産業を活かした再編計画
を提案する。

今後の桑名市の発展の新たな第一歩となる。

■分析

① お互いを見知る関係性

周辺には漁師が数多く住んでおり、お互いを見知る関係性が多い。

② 低層切妻の街並み

伊勢湾台風以降に形成された街並み。層二階の切妻屋根が建ち並ぶ。

③ 水と近い位置の住宅群

豊富な貝の漁業を活かす、しぐれ煮の販売店が住宅街の中に多く存在する。

④ しぐれ煮の販売店

豊富な貝の漁業を活かす、しぐれ煮の販売店が住宅街の中に多く存在する。

⑤ 多くの船がある舟入り

非常に多くの船が停泊しており、利用する漁師の数もその分多くなる。

■課題

交流拠点の不足

関係性の多さに対し、住宅が建て詰まっているためそれが街の中で顕在化されない。

街並みの変化

周囲の風景に調和しない新築の戸建てが少しずつ建築されており、街並みが残らない。

水との関わりの低さ

魅力的な舟入と周囲の住宅との関係が完全に切られている。腰壁の水門は使われない。

製造から販売への遠さ

競り落とした後別の地で製造、再びこの地で販売するため、流通に際して手間がある。

導線の少なさ

漁師の数に対して舟入への導線が圧倒的に少ない。南北の端から入るのみである。

■プロポーザル

桑名市の現状

大都市近郊ベッドタウンとして住宅地造成を軸に発展 → 住宅地開発の将来的な用地不足

↓

既存の市街地再編のアプローチ

⇓

Site

赤須賀地区

（ハマグリ、しぐれ煮）

地場産業を活かす再編の計画

既存の街並みを活かす再編の計画

Program

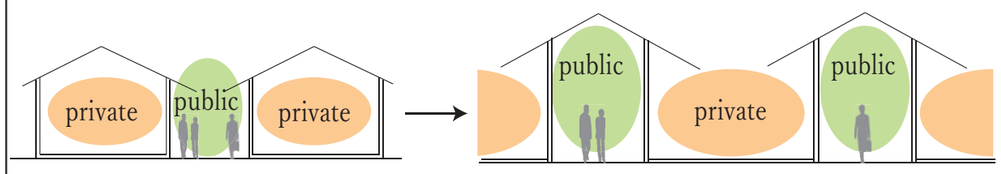
しぐれ煮の会社と住民が共生する街区

||

Concept

低層切妻の屋根を起点とした建築的操作

建築的操作…Private と Public を逆転



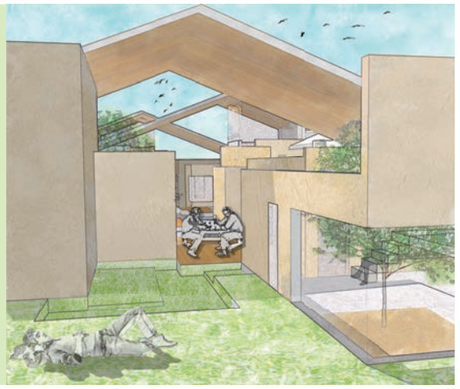
屋根と軒下空間の関係

Public 空間は新たな定義の「軒下」空間となる

基本情報
敷地：三重県桑名市赤須賀付近
用途：集合住宅、しぐれ煮会社
住民想定：漁師、12世帯
従業員：15人
住戸A
住戸B
住戸C
住戸D
住戸E
住戸F
住戸G
住戸H
住戸I
住戸J
住戸K
住戸L
販売所
事務所
工房
更衣室
共有キッチン
共有キッチン
用具庫
用具庫
用具庫
N
1F平面図

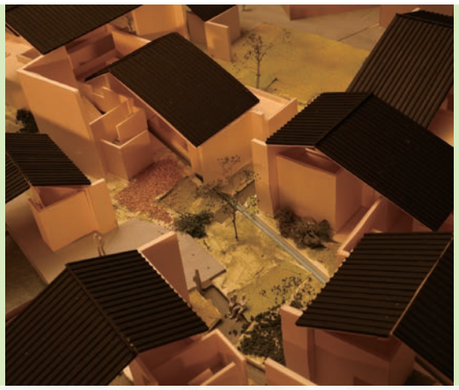
①　様々な居場所を生む計画

人が滞留可能な場をつくりだす。
ただの開けた場ではなく、軒下は住民の、開けた場は周辺の人も使える場として提案。
従来にはない、屋根の高い開放的な軒下空間が、より居心地の良い場所を生み出す。



②　切妻の景色を継承した計画

まちの景色を大きく変えずに、住み方に変化をもたらす。これにより、この地に戻る人が大きな違和感を抱かないための提案。
屋根の配置と勾配は、既存の街区から踏襲し、まちの足跡が屋根という形で残されている。

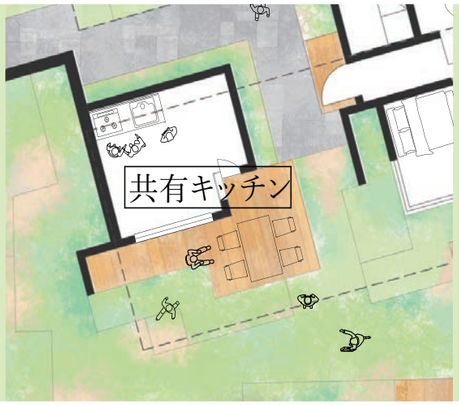


③　水を活かした計画

親水性が高くも、万が一の災害時に強みを持つ。
舟入を引き入れることで、土地の魅力を最大限活用。
敷地内いたるところの段差は、居場所の拠り所となると同時に、万が一の増水時に急激な浸水を防ぐ。

④　住宅としぐれ会社の共存する計画

土地のコンテクストを踏襲しつつ再編。
大規模な工場を必要としないことから、敷地内で生産から販売まで可能。搬出入の導線も配慮した平面計画としている。
共同キッチンを会社が所有し、住民にも開放。



⑤　漁師の動線に配慮した計画

周囲に住み舟入を利用する漁師にも配慮し、舟入へのアクセサビリティを増やすための動線計画。